

Citation: David SP, Lancaster T, Stead LF, Evins AE, Cahill K. Opioid antagonists for smoking cessation. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 4. Art. No.: CD003086. DOI: 10.1002/14651858.CD003086.pub2.

CRG名: Tobacco Addiction

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 11 June 2009

Clib issue No.; N/U: 2009 issue 4, Updated

背景: ニコチンの強化作用は中心性全身性ともに様々な神経伝達物質が放出されることにより媒介されるかもしれない。喫煙者は、否定的な感情、緊張や不安を緩和するとともに、喜びや刺激や息抜きといった肯定的な効果を訴える。オピオイド(麻薬)アンタゴニストは喫煙の報償的効果を減衰させるような潜在因子として、研究者の興味を特に引き付けている。

目的: 長期禁煙を促すようなオピオイド拮抗薬の効果を評価すること。薬物にはナロキソンと長期間作用型オピオイド拮抗薬のナルトレキソンを選択した。

検索戦略: 2009年6月にナロキソン、ナルトレキソンやその他のオピオイド拮抗薬の試験をCochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)で検索し、'Narcotic antagonists'や喫煙に関する言葉を用いてMEDLINEで追加の検索を行った。可能な場合、出版されていない研究の情報を求めて私たちはさらに著者にも連絡を取った。

選択基準: 禁煙のためにオピオイド拮抗薬とプラセボもしくは代替の治療法を比較したランダム化比較試験を検討した。6か月間以上の禁煙を報告した試験はメタアナリシスに組み入れた。私たちは、記述的分析を行う目的で、精神生物学的媒介変数を評価するためにデザインされた短期間のオピオイド拮抗薬のニコチン依存に関連する実験室ベースの研究の結果も調査した。

データ収集と分析: 私たちは調査対象集団のタイプ、薬物療法の本質、アウトカム指標、ランダム化の方法、および追跡の完全性に関するデータを重複して抽出した。主な結果の判定は、ベースラインでの喫煙患者のコチニンや一酸化炭素で証明された6か月以上の禁煙とした。妥当なものに関しては、マンテルヘンツェルの固定効果モデル(オッズ比)を用いてメタアナリシスを行った。

主な結果: 長期禁煙のメタアナリシスの組み入れ基準に合致するナルトレキシソンの試験が4つあった。4つすべての試験でナルトレキソンとプラセボ間で有意な禁煙率の差は認められなかった。統合した解析では長期禁煙に及ぼすナルトレキシソンの有意な効果はなく、信頼区間は広がった(オッズ比1.26, 95%信頼区間0.80~2.01)。長期追跡を報告したナロキソンやブプレノルフィンの試験はなかった。

レビューアの結論: 4つの試験からの限られたデータでは喫煙者が禁煙するためにナルトレキソンが助けになるかどうか肯定も否定もできなかった。禁煙を計画する際に、ナルトレキソンが臨床的に有意の効果を持つのと、否定的な効果を持ちうるのと、信頼区間は一致している。禁煙に及ぼす効果への疑問を解決するために、ナルトレキシソンの大規模試験のデータが必要である。

(翻訳 渡辺千穂・監訳 埴岡 隆;JCOHR)

翻訳公開日: 2010年7月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは毎月、改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。